

第1章 調査結果の概要

1. 育児中父母調査

(1) 子育てをしていて日ごろ感じることにについて

今回の調査では、「子どもと一緒にいることで安らぐ」「生活に張り合い・やる気を感じる」「子育てをしていることによって自分も人間的に成長していると感じる」「子どもを通じて友だちが増えた」「子どもを通じて地域を知るきっかけが増えた」といった子育てに肯定的な質問については、8～9割の親が「よくある」または「どちらかといえばある」とプラス面で回答している。しかし、「経済的に不安を感じる」「体力的に不安を感じる」「人間関係(人付き合い)に不安を感じる」「子どもをどう育てていいかわからない」「配偶者が協力的でなくつらい」といった子育て不安に関する質問については、「よくある」または「どちらかといえばある」というマイナス面の回答が多い。経済的不安を6割強、体力的不安を5割強、子育てに関する不安を3割弱の親が感じている。体力的な不安については、年齢が上がるほど割合が増えるが、その割合は父親よりも母親のほうが高かった。

子どもと一緒にいることによる安らぎや生活の張り合い・やる気については、父親のほうが感じているが、「人間的な成長や友だちが増えた」「地域を知るきっかけが増えた」については、母親のほうが実感している。社会的なつながりにおいて子育てをしている姿が父親よりも母親のほうがうかがえる。

(2) 生活の中で感じることにについて

睡眠時間や食事の時間、子どもとのスキンシップなどが、「ある」と感じている親は6～7割前後である。しかし、友だちとゆっくり会う時間や趣味の時間、学習の時間など自分の自由になる時間が父母ともに「ある」と感じている親は3割弱だった。

(3) 子育ての悩みの相談相手について

子育ての相談相手については、「配偶者」が74.1%と最も多かったが、「保育所・幼稚園・小学校で子どもを通じて知り合った友だち」(母親45.3%、父親7.5%)、「子育てサークルなど地域活動で知り合った友だち」(母親11.9%、父親2.1%)などが父親よりも母親に多く、父親は「職場の友だち」(父親28.4%、母親21.5%)が高い。ここでも、地域社会とのつながりや自分でつくったネットワークの活用という点では、父親よりも母親のほうに積極的な姿がうかがえる。

(4) 子育てと仕事の両立で困ること

子育てをしながら働く際に困ることについては、「子どもと接する時間が十分に取れない」が44.2%と最も多かった。「緊急時などの一時預かりがない」「育児休暇・看護休暇が取れない」などのサービスや制度上の問題、「職場に子育て優先という考え方がない」などの社会通念上の問題もあげられたが、子育て中の親が最も気がかりなのは、子どもと接する時間の少なさである。

(5) 地域活動における子育て支援の利用と今後の期待について

利用したことがある子育て支援としては、「子どもを対象にした体験学習活動」(32.3%)、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」(30.2%)、「親子で気軽に参加できる行事」(23.2%)が上位にあげられた。最も多かった「体験学習活動」の内容については、「自然体験・環境学習」(51.0%)、「スポーツ」(44.2%)、「創作活動(絵、工作など)」(41.5%)などであった。ただし、「利用したことがない」を含む無回答が38.8%あった。これは、活動が行われていない地域があることも予想されるが、自由回答の結果をみると、活動のPRが十分でないことも影響しているとも考えられる。

今後地域活動の取り組みとして期待するものには、「体験学習活動」(59.5%)、「土・日・放課後の子どもの居場所づくり」(49.5%)、「気軽に利用できる一時預かり」(49.4%)が上位にあげられている。

(6)子育て支援に関する地域活動への参加条件について

地域活動への参加をしやすくするための条件として、5割を超える人が「魅力的な活動であること」をあげている。どのような活動が「魅力的」であるかについては、設問を設けていなかったため、その内容を明らかにすることはできなかった。また、「参加しやすい距離にある」「家族で参加できるようにする」も上位にあげられている。

(7)子育て支援に関する地域活動への参加意欲について

自分自身の地域活動への参加の意思については、7割の人が「条件があれば参加したい」と前向きな回答をしている。参加を期待できるこれだけ多くの潜在的な人材を、いかに掘り起こしていくかは、今後の大きな課題である。例えば、参加の条件としてあげられたものをみると、「時間の融通がきく」(52.2%)、「子ども連れでも参加できる」(50.7%)が過半数を超えている。キーワードは、「自由な時間」「子ども連れ」「魅力的な活動」「身近」である。

さらに、前述の地域活動の利用の項でもふれたが、「どこでどのような子育て支援サービスが行われているのかわからない」という声も多くあった。参加したくても参加できないという人も相当数いることが予想される。

2. 保育・教育関係者調査

(1)実施している・今後実施予定の子育て支援と地域活動への期待

保育・教育関係施設で現在実施しているあるいは今後実施予定の子育て支援については、「子育てに関する相談」(72.4%)、「子どもを対象にした体験学習」(68.1%)、「親子で気軽に参加できる行事の開催」(66.6%)、「子どもと小・中・高・大学生や高齢者などの異世代交流」(64.4%)、「子育てに関する情報の提供」(63.7%)、「子育てに関する講座や研修会、イベントの開催」(63.0%)が半数以上で実施中または今後実施予定である。

地域活動への期待としては、「子どもを対象にした体験学習活動」(69.0%)、「子育てボランティアの育成」(55.3%)、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」(51.7%)が5割を超えている。

(2)地域づくりグループとのネットワーク・協働の希望

地域活動グループとのネットワーク・協働については、「すでにやっている」が23.4%で、「やりたい」も50.9%と、今後地域活動グループからの積極的な働きかけによっては、保育・教育施設とのネットワーク・協働を進められることが期待できる。

3. 地域活動グループ調査

(1)実施している子育て支援と保育・教育関係者への期待

地域活動グループが現在実施している子育て支援については、「子どもを対象にした体験学習」(60.7%)、「親子で気軽に参加できる行事の開催」(56.7%)、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」(47.1%)が上位三項目である。「気軽に利用できる一時預かり」は15.1%と最も少なかった。

保育・教育関係施設への期待は、「子どもを対象にした体験学習活動」(62.9%)と「気軽に利用できる一時預かり」(51.4%)が5割を超えている。

(2)保育・教育関係施設とのネットワーク・協働の希望

保育所・幼稚園・小学校とのネットワーク・協働については、「すでにやっている」が23.7%で、「やりたい」も54.0%と、今後保育・教育施設とのネットワーク・協働を進められることが期待できる。

(3) 今後連携を強めたい他団体

今後連携を強めていきたい団体等は、「地域住民」(39.8%)、「行政」(29.9%)、「他の子育てグループ」(23.7%)、「小学校」(22.9%)、「子育て支援以外の地域活動グループ」(22.5%)、「保育所」(21.3%)などがあげられている。

(4) 活動上の悩み・問題点

活動を進めるにあたっての悩み・問題点は、「活動資金が足りない」(49.5%)、「親が重要性を認識していない」(41.4%)、「リーダーが高齢化してきた」(34.6%)、「参加者が集まらない」(31.8%)、「スタッフが集まらない」(30.6%)などがあげられている。

(5) 行政に求めたい支援

行政に求めたい支援については、「活動費の助成」(44.6%)が最も高く、次いで、「地域住民への地域の子育て支援活動の紹介・広報」(33.4%)、「活動拠点(場所)の提供」(32.6%)などがあげられている。

4.3 調査間比較

(1) 実施している子育て支援と利用したことのある子育て支援について

保育・教育関係施設で実施している子育て支援、地域活動グループが実施している子育て支援については前述の通りだが、その利用を子どもの学齢別にみると、未就園児のみでは、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」が44.0%と最も高く、その他は2割に満たない。保育園・幼稚園児のみでも、やはり「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」が32.1%と最も高く、その他は2割に満たない。未就園児+保育園・幼稚園児でも、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」が34.2%と最も高く、その他は2割に満たない。保育園・幼稚園児+小学生以上では、「子どもを対象にした体験学習活動」が38.5%、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」が29.1%、「親子が気軽に参加できる行事」が26.5%だが、その他は2割に満たない。小学生以上のみでは、「子どもを対象にした体験学習活動」が45.8%と最も高く、「親子が気軽に参加できる行事」が28.3%、「親子が自由に交流できる子育て広場や子育てサロン」が23.2%だが、やはりその他は2割に満たない。

利用したことがないを含む無回答は、未就園児のみで40.5%、保育園・幼稚園児のみで47.0%、未就園児+保育園・幼稚園児で45.4%、保育園・幼稚園児+小学生以上で35.8%、小学生以上のみで36.2%であった。

(2) 今後期待する子育て支援について

子どもの学齢別に期待するものをみると、未就園児のみでは、「気軽に利用できる一時預かり」への期待が57.5%あり、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」への期待は42.2%ある。

未就園児+保育園・幼稚園児でも、「気軽に利用できる一時預かり」への期待が54.7%、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」への期待も54.8%ある。

保育園・幼稚園児のみでも、「気軽に利用できる一時預かり」への期待が48.0%、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」への期待も46.3%ある。

保育園・幼稚園児+小学生以上でも、「気軽に利用できる一時預かり」への期待が50.9%、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」への期待も53.1%ある。

小学生以上のみでも、「気軽に利用できる一時預かり」への期待が43.4%、「土日・放課後の子どもの居場所づくり」への期待は47.6%である。

期待と実施の格差がみられたものは、「気軽に利用できる一時預かり」と「土日・放課後の子どもの居場所づくり」である。実施率は「気軽に利用できる一時預かり」(保育・教育関係施設で36.3%、地域活動グループで15.1%)と「土日・放課後の子どもの居場所づくり」(保育・教育関係施設で36.7%、地域活動グループで29.5%)である。